

第1学年2組 生活科学学習指導案

平成30年2月8日(木) 公開授業Ⅱ

平成30年2月9日(金) 公開授業Ⅰ

会場 1階-②(H 1年生生活)

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
教諭 三星雄大

1 単元名 どうぶつとなかよし

2 本単元の価値

本単元は、「小学校学習指導要領解説生活編」内容(7)を受けて設定した。

内容(7)

動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。



動物飼育にかかわる内容は、植物の栽培とともに、生活科の発足から大切にされている。新学習指導要領でも変わらない。今回は、モルモットを飼育することとした。理由は次の五点である。

- 正確がおとなしく滅多に噛みついたりしないので低学年でも飼育しやすい。
- 動きもゆったりしていて跳躍力もないので、逃げたりしにくい。ふたのない衣装ケースでも十分に飼育可能。
- アナフィラキシーの危険性が少ない。
- 薄明薄暮性だが、飼育者の生活リズムに合わせて活動するようになる。
- 完全な草食性なのでエサを調達しやすい。

モルモットを飼育することは、次のような価値がある。

一つめは、生活科の資質・能力が育成できるということである。子どもは、「もっとなかよくなりたい」「元気に育てほしい」という思いや願いをもち続けて、世話をする。このような世話活動の繰り返しにより、動物に親しみをもち、大切にしようとする気持ちが養われていく(態度)。このような感情は、間接体験では得ることが難しい。動物飼育が子どもの成長を促してくれるのである。また、飼育を通して、その動物の生命と生活すべてに責任をもつことを学ぶ。毎日のエサやりから始まり、排泄物の処理など様々なことについて手を抜くことができない。子どもは、動物の変化や成長の様子に関心をもちながら働き掛ける(思考力・判断力・表現力)。だからこそ、命あるものの理解を深めていくことができる(知識・技能)。

二つめは、協力し合って共に世話をする中で学ぶことができるということである。モルモットを飼育する場合は、友達と一緒に協力し合いながら世話をすることになる。役割を決めて、動物のために力を合わせて協力し合うことの大切さを学ぶことができるのである(協働性)。友達と一緒に世話をすることによって、互いに気付いたことを話し合うこともできる。互いに認め合う中で、友達の新たなよさに気付くこともできる。

本単元では、デジタルポートフォリオも併用している。具体的には、「ロイロノート」を使って、そのときのモルモットの様子、自分とモルモットとのかかわりを写真や動画で蓄積していくことができるようにした(ツール活用能力)。振り返りの際に活用したり、気付きの交流場面で活用したりする。

3 目指す姿

モルモットに親しみをもち接しながら、モルモットとのかかわりを深める子ども

具体的には、モルモットを自分とのかかわりでとらえながら、既知の知識や経験と気付いたこととを関係付けながら考えるという「見方・考え方」を働かせ、様々な資質・能力を発揮しながら、より一層モルモットを大切にしようとする姿。

4 働かせる「見方・考え方」

モルモットを自分とのかかわりでとらえながら、既知の知識や経験と気付いたこととを関係付けて考えること(以下:「身近な生活にかかわる見方・考え方」)

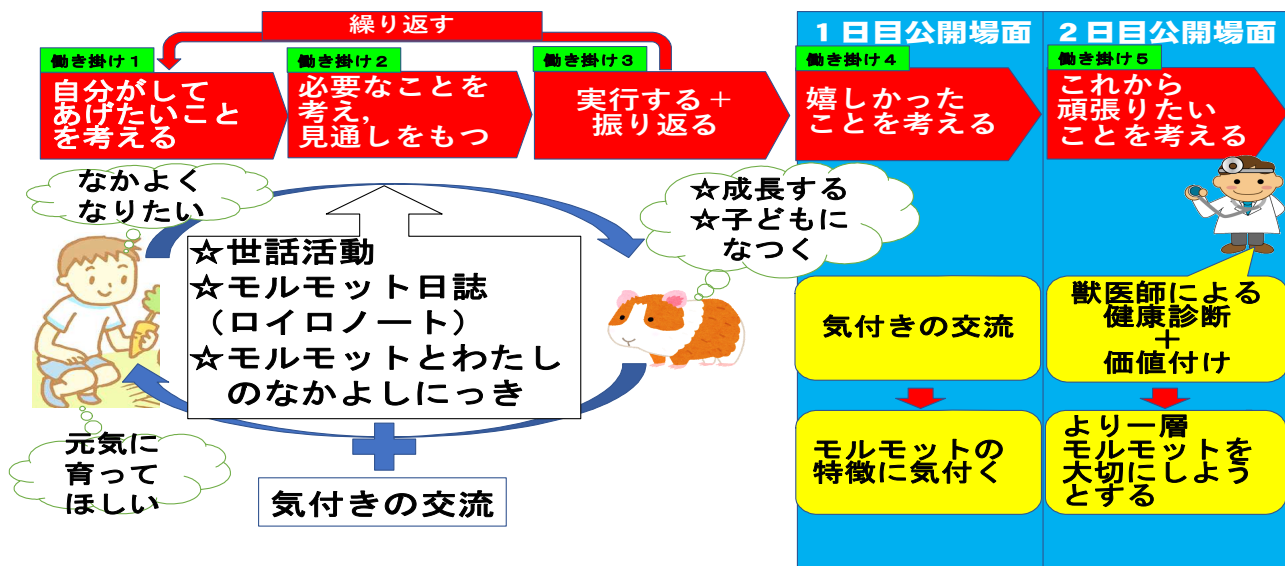
5 育成する資質・能力

別紙、「指導計画」参照

6 指導の構想

11月に新潟市中央区にあるどうぶつふれあいセンターへ行った。そこでは、モルモットと直接ふれあう体験を行った。振り返りにおいて「モルモットをさわることができて、楽しかった。学校で飼ってみたい」と、発言する子どもがいた。この発言がきっかけとなり、モルモットを飼うことになった。その後、モルモットを飼育する上で大切にしたいことを共有したり、モルモットの飼育方法・飼育道具に関する時間を設定したりした。子どもは、休み時間や家に帰ってから調べ、モルモットが学校に来ることを心待ちにしていた。

準備を進めていく過程で、「モルモットの入学式をしたい」という子どもがいた。その考えを共有すると、「自分たちもしてもらったから、モルモットにもしてあげたい」となった。モルモットの入学式を行う前には、飾りを作ったり司会の練習をしたりした。そして、1月10日にモルモットの入学式を行った。入学式後、どのようなことを頑張りたいかを問うた。子どもは、「モルモットとなかよくなりたい。そのためにお世話を頑張る」と振り返りの作文に記述した。



働き掛け1
自分がモルモットにしてあげたいことと理由を問う。

一人一人の子どもが思いや願いをもつことができるようにするための働き掛けである。モルモットとなかよくなりたいたいと考えている子どもに、自分がモルモットにしてあげたいことを問う。子どもは、「遊んであげたい」「えさをあげたい」「掃除をしてあげたい」「プレゼントをあげたい」と考える。モルモットを迎えるまでに得た知識や動物飼育の経験などを基にしてかわり方を考えるのである。「身近な生活にかかわる見方・考え方」を働かせている姿である。このとき、理由も問う。子どもは、「図鑑でモルモットはリンゴが好きだと書いてあった。なかよくなるためにリンゴを食べさせたい」などと発言する。してあげたいことを具体的に考えた子どもに次のように働き掛ける。

働き掛け2
モルモットにしてあげたいことを実行するための方法を問う。

一人一人の子どもが見通しをもって活動できるようにするための働き掛けである。モルモットにしてあげたいことを考えた子どもに、実行するための方法を問う。いつ・どのようにするかははっきりさせることで見通しをもって活動することができるからである。子どもは、「モルモットの当番をするときに、お母さんからリンゴを用意してもらって持ってくる」などと発言する。「身近な生活にかかわる見方・考え方」を明確にした子どもに次のように働き掛ける。

働き掛け3-①
モルモットにしてあげたいことを実行する時間を一定期間設定し、できたこととやったことを問う。

思いや願いを実現することができるようにするための働き掛けである。モルモットにしてあげたいことは、「当番のとき」「休み時間」「ホームステイのとき」など、一人一人異なる。そのため、実行する時間は一定期間設定する。最初は、自分があげたえさを食べてくれたことに喜んだり、なでてあげたときの仕草がかわいいと喜んだりする。かかわり続ける内に、好んで食べるえさは何かを考えるようになっていたり、鳴き声とそのときの状況を関係付けて考えたりするようになる。このように、子どもは、モルモットに親しみをもって接したり、変化や成長の様子に関心をもって働き掛けたりする(②思考力・判断力・表現力、③態度)。活動後、できたこととやったことを問う。子どもは、「私が持ってきたリンゴを食べてくれてすごく嬉しい」などと振り返る。子どもは、してあげたいことを実行したことにより、嬉しい気持ちになる。この嬉しさは、自分のかかわりにより反応してくれたから実感できる。つまり、モルモットが活着ているから実感できるのである。嬉しいという気持ちの積み重ねにより、命あるものの理解を深めていく。

働き掛け3-②
モルモットにしてあげたいことを実行してみて気付いたことを交流する場を設定する。

新たなかわり方に気付かせるための働き掛けである。モルモットにしてあげたことは、一人一人異なる。気付いたことを問い、子どもの発言を分類しながら黒板に整理していく。子どもは、自分とは異なるモルモットへのかかわり方を知る。このような交流の場を通して、新たなかわり方を知り、「モルモットのために次は～したい」という新たな思いや願いが一人一人に生まれる(②思考力・判断力・表現力、③態度)。なお、働き掛け1～3-②はセットで繰り返す。繰り返す内に、モルモットは成長し、子どもに懐いていく。諸感覚を通してかかわり続けることにより、モルモットの特徴(生命をもっていること、成長していること、自分のかかわりにより反応してくれること)に無自覚であるが気付いていく。

働き掛け4 (1日目)

モルモットとのかかわりを通して、自分が嬉しかったことを問う。

様々な資質・能力の発揮を促すための働き掛けである。

嬉しかったことを問い、グループで交流する時間を設定する。このときの子どもは、これまでのかかわり方が記されたモルモット日誌や「モルモットとわたしのなかよしにつき」などを基に考える(ツール活用能力)。そして、嬉しかったことを想起して話し合う(協働性)。モルモットにしてあげたいことを実行することを通して、たくさんのモルモットの特徴に無自覚であるが気付いている。友達との交流により、無自覚だったモルモットの特徴が自覚できるのである。

その後、学級全体で嬉しかったことを話し合う時間を設定する。このとき大切なことは、教師が事前にすべての子どもの嬉しさを見取っておくことである。モルモットの特徴に気付いている子どもを意図的に指名し、話し合う時間をコーディネートする。子どもは、これまでの具体的なかかわりを基に考え、モルモットの特徴に気付く(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③態度)。

働き掛け5 (2日目)

獣医師と交流する場を設定し、これから頑張りたいことを問う。



発揮した資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

子どもはモルモットとなかよくなるためにできることを一生懸命に行ってきた。しかし、その結果、元気に成長しているかどうかは判断できない。そこで、モルモットの健康状態を調べてもらい、子どものかかわり方を価値付けてもらうため、担当獣医師の宮川先生(新潟県獣医師会会長)と交流する場を設定する。宮川先生からモルモットを診察してもらい、次のように話してもらう。

モルモットのお父さんとお母さんになって1ヶ月が経ちましたね。お世話のことで分かってなかったことや難しかったことはありませんでしたか(子どもに問い掛ける)。今、皆さんが教えてくれたように話し合ったり調べたりしてモルモットのことを考えてお世話し続けてきたんですね。だから、こんなに大きくなったし、モルモットはすごく元気です。頑張りましたね。

子どもは、自分たちのかかわり方に自信をもつ。このような子どもにこれから頑張りたいことを問う。子どもは、これからも続く飼育活動に意欲を高め、より一層モルモットを大切にしようとする。このような一連の学習を経て、モルモットに親しみをもって接しながら、モルモットとのかかわりを深める子どもとなる。

7 指導計画 全12時間

別紙「指導計画」参照

8 本時の構想<第1日目> 11/12時間(45分授業)

(1) 本時のねらい

これまでのモルモットの飼育活動を振り返り、具体的なかかわり方を基に話し合うことを通して、モルモットの特徴に気付くことができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 これまでの飼育活動の中で嬉しかったことを想起し、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は、小屋のそばに行くとき近寄ってきかれるようになったことが嬉しかった。 ・最初は、小屋を掃除するのに時間がかかっていたけど、だんだん慣れてきたから早くなったのが嬉しかった。 	<p>○説明 「これまで皆さんは、自分がモルモットにしてあげたいことを考えてしてきましたね。今日はね、〇〇さんがこんなことを書いていたので紹介しますね」 「当番のとき、家から持ってきたリンゴを食べさせたら喜んで全部食べてくれたからすごく嬉しかった」</p> <p>○発問 「皆さんも〇〇さんのようにこれまでのお世話の中で嬉しかったことはありますか」 【働き掛け4】</p> <p>○説明 「皆さんもあるようですね。では、今日の課題をこのようにしましょう」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎モルモットのお世話をするなかで、うれしかったことは？</p> </div> <p>○指示 「グループで話し合いました」</p>

〈えさをあげるときのかかわりについて〉

- ・小松菜が好きだと分かってあげてみたら本当に食べた。喜ぶと思って持ってきた物を食べてくれて嬉しかった。

〈モルモットが懐いてきたことについて〉

- ・最初は、新聞紙で作った部屋に閉じこもってばかりいたけど、だんだんと私の方に来てくれるようになった。学校にも慣れてきたみたいで嬉しい。

〈成長してきたことについて〉

- ・入学式の日は、315グラムだったけど、今は400グラムを超えた。僕たちがお世話を頑張ったから大きくなったのが嬉しい。

〈生命をもっていることについて〉

- ・さわってみると温かかったり、なでみると柔らかかったりした。僕たちと同じみたいだと初めて分かったから嬉しい。

〈新しい発見について〉

- ・図鑑で調べたり家族に聞いたりしてモルモットのことを調べたけど、自分でお世話をしてみたら違うこともあった。新しいことが分かって嬉しい。

★①知識・技能, ②思考力・判断力・表現力, ③態度, ツール活用能力, 協働性

2 学級全体で嬉しかったことを交流する。

〈えさをあげるときのかかわりについて〉

- ・▲▲さんが、キャベツをあげていてほくもあげてみたら食べてくれた。友達から聞いたことをしてみたらうまかった。

〈モルモットが懐いてきたことについて〉

- ・僕の方に近づいてきてかわいい声で鳴くようになった。僕に慣れてきたと思う。

〈成長してきたことについて〉

- ・毎日体重がちょっとずつ増えているのが分かったから嬉しい。もっと大きくなってほしい。

〈生命をもっていることについて〉

- ・さわってみると温かかったり、なでみると柔らかかったりした。僕たちと同じみたいだと初めて分かったから嬉しい。

〈新しい発見について〉

- ・図鑑ではブロッコリーを食べるって書いてあった。でも、私のモルモットはあまり食べない。モルモットのことをがどんどん分かって嬉しい。

- ・嬉しかったことはあるけど、体重が減った日が3日あった。僕たちだけでは分からないから宮川先生に聞いて確かめたい。

★①知識・技能, ②思考力・判断力・表現力, ③態度, ツール活用能力, 協働性

3 本時の振り返り及び次の時間の見通しをもつ。

- ・モルモットが入学したときは、体が小さくて心配していた。でも、今は体重も増えたい体も大きくなったから嬉しい。私が呼ぶと来てくれるようになったからなかよくなった。

- ・抱いてみると温かかったり、さわってみると柔らかかったりした。お世話をしてみても初めて気付いた。だんだん慣れてきたからもっとお世話を頑張りたい。

★①知識・技能, ②思考力・判断力・表現力, ③態度

※このとき、モルモット日誌、「モルモットとわたしのなかよしにつき」などを活用しながら話し合うことを認める。

※机間指導において次のように問い掛ける。

○「どこからそう思ったのですか」

○「なぜそう思ったのですか」

○「同じ(似ている)考えの人はいますか」

○指示

「全体で発表しましょう」

※一人の発言が全体で共有できるように、必要に応じて次のような問い掛けを行う。

○「どこからそう思ったのですか」

○「なぜそう思ったのですか」

○「同じ(似ている)考えの人はいますか」

※子どもの発言に応じて、タブレット端末の中に記録されている「モルモット日誌」を提示しながら話し合うこととする。

○発問

「・・・さんの言いたいことが分かりますか」

○説明

「皆さんは、モルモットが本当に健康かどうか確かめたいのですね」

○説明

「皆さんと約束していた健康診断の日が明日です。健康診断と一緒に気になることも聞けるといいですね」

○指示

「今日の授業を通して分かったこととあったことを書きましょう」

(3) 評価

モルモットの特徴に気付いているかを発言やワークシートの記述から見取る。